第一次国共合作期におけるコミンテルン軍事顧問の役割(III)

——А.И. Черепанов: Записки Военного Советника в Китае——を中心として

滝　本　可　紀

On the Role of Advisers of Comintern in the Period of the First Kuomintang and Chinese Communist Party Cooperation (III)

Yoshinori TAKIMOTO

Abstract

Comintern agents made contact with Sun Wen in the South. The May Fourth incident inspired Sun Wen to reorganize the Kuomintang. After returning to Canton in 1923, he began using Chinese Communist Party members in important posts. Now the able Soviet adviser, Michael Borodin reached Canton with other advisers. He drafted the Kuomingtang's new Constitution.

This memoir by A I. Cherepanov deals with preparations for the Kuomingtang's 1st Congress and the distributions of forces in Canton and Shanghai.

1911年の辛亥革命によって中華民国は成立し，アジアで初めて共和制の国家が出現した。この事は，聖王による支配，即ち，支配者による善政を期待する思想から，それは民本主義に通ずるものであるが，人民自身による政治の決定，即ち，民主主義への移行を象徴する最大の政治行為であった。

しかし，歴史の進行は当然のことながら，与えられた条件から大きく逸脱することはできない。それは何千年来の古代的専制支配，及び19世紀半ばから始まる帝国主義列強による半植民地支配であった。

清朝による全国の統一的支配の崩壊が生み出したものは各地の軍閥，それも列強のひも付きの軍閥政治と，絶えまない軍閥間の争いであった。その中でも最大の軍閥・袁世凱は自己を帝位に就けるための策略をいくつか行い，その度に全中国からの反対に会い，1916年6月，病死した。その後も，軍閥間の争いは絶えなかったが，1914年に始まる第一次大戦の過程及び結果は中国自身に極めて重大な変化を引き起こした。それは参戦及びパリ講和会議の問題と，ロシア革命の影響であった。この両者が合流したものが五四運動であり，ここに中国最初の大衆運動が展開された。

これらを背景として，孫文は今までの政治運動の方策の全面的変更を求めた。彼は1917年7月，広東に赴き，広東軍政府が成立した。しかし，広西，雲南軍閥を基盤とするこの政府で，彼の理想は実現するすべが無かった。間もなく，彼はこの政府の大元帥を辞任した。1919年，彼は今までの秘密結社的な中華革命党を中国国民党に変え，新たに大衆を基盤とする政党への脱皮を計った。

かくて，孫文は国民党改組に着手し，今までのように，軍閥の力に頼ることなく，自己の軍隊を持つことになるのである。ここに，Бородин 達，コミンテルンの顧問達が登場することになる。1924年の歴史的な国民党第一回大会を前にして，陳炯明の攻撃という危機を乗り越え，どのようにして大会が開かれていったかが以下のЧерепанов の回想録に述べられている。これは幾徳工業大学研究報告第5号，第6号に登載したものの続きである。

国民党第一回大会の準備

1923年6月，中国の若い共産党は第三回大会で，コミンテルンの決議に基き，孫文の民主的立場，及び帝国主義者や封建軍閥に対する彼の戦いに対して，正当な評価を与えた。

共産党と国民党の合作，共産党の組織，及び政治的独自性を保持しながら，個人の資格で共産党員が国民党に

昭和57年10月9日受理

加入することが決議された。最大の課題は国民党を，人民と固く結びついた大衆的，民族的な党に変えることであることが確認された。中国共産党の政治路線の基礎に民族，及び植民地に関するコミンテルン第二回大会に於けるレーニンの指示がすでに存在していた。

私と Трешатов は 1924 年，1 月 25 日に広州に着いた。丁度この時，当地で国民党第一回大会が開かれていた。Поляк, Герман, さらに，特に Михаил Маркович Бородин との話しのおかげで，また POCTA の記者が出す新聞や速報によって，私達はただちに広州の状況に精通し，また国民党大会とその日程についても詳しく知ることができた。私達はすぐにこの大会に関係している仕事に加わることになった。

1923 年 9 月末，Герман が最初に広州に到着し，次いで 10 月の初めに Бородин, Владимир Поляк と Фаина Семеновна Бородина が到着した。Бородина は後に Бородин の秘書になった。

孫文に対する我が国の援助に関連した仕事をすべて統轄していたのは Бородин であった。

広州に於ける当時の Бородин の特殊な立場について特に述べたい。孫文の我が国に対する態度や今後の意図が Бородин に与えられていた信頼に，はっきりと反映していた。

Бородин の活動の意義について，よく考えてみよう。即ち，外国人が国民革命軍の指揮の上で極めて重要な地位に就いた，ということであり，特に仕事の初期に於いては，その人の持っている思想の力と大きな政治的才能によってのみ自己の立場を強めることができた。実に，状況は前例のないものであった。しかし，そのような事情は孫文によって完全に意識的につくられたものであった。彼は可能な限り最大の権力を Бородин の手に集中させようとした。Бородин が間もなく就いたポストをすべて思い出してみよう。それらは国民党政府の最高顧問，外務省顧問，国民党中央執行委員会政治局顧問であった。Бородин は孫文の国民党内の最も重要な問題の決定に発言権を有し，すべての最重要な会議に出席し，基本的な政治文書を作成した。しかも，孫文は Бородин を政治集会等で自分の支持者達に紹介する際は常に，聴衆の面前で彼に最大の権威を与えようとした。

孫文の死後，二年間，Бородин は孫文の忠実な後継者である革命家達の間で，高い地位を占めていた。孫文が中国革命の発展を見通して，Бородин に指導部内での確固とした地位を与えたのは明らかである。孫文の計画は北伐，及び全中国の革命的解放に関連したものであった。孫文は心の中で，解放された後の中国に於いても Бородин やソ連の顧問達に重要な役割を割り当てていたように思われる。というのは，彼はソ連の経験を研究することは一時的な運動ではなく，中国の革命諸力の活動の最も重要な，恒常的な傾向の一つであると思っていたからである。

Бородин は単に重大な問題に関しての孫文の顧問であったというだけではなく，彼の個人的な友人でもあった。彼はボルシェヴィキ・レーニン主義者の持っている真の政治的成熟さを見せた。

1920 年代，ソ連共産党内部に少なからぬ分派，極左グループが出現したが，彼等の見解はレーニンの徹底的な批判を受けた。例えば，トロッキスト達は中国で起こっている事態の本質を理解せず，極左的な，見かけだけは革命的と思われる方針を打ちだした。Бородин はそのような人物ではなかった。彼はレーニン主義的尺度で孫文の思想を評価し。小ブルジョア革命運動家と肩を並べて仕事をし，極めて困難な外交的状況のもとで正しい政治路線を推進することに，並々ならぬ能力を発揮した。Бородин は孫文のこと，また彼と共に仕事をした一年半のことを私達に語る機会がなかった。それは私達にとって，何と大きな損失であろうか。

孫文は Бородин を暖かく迎え，彼にソヴィエト ロシアの情況を色々くわしく尋ねた。孫文が最も関心を示したのは，軍事及び工業であった。Бородин はすべての事柄を細部にわたりくわしく説明し，それによって，今後の密接な協力のための地ならしをしたのであった。彼は赤軍について孫文に語り，軍隊内部に於ける政治工作の重要性に注意を向けさせた。孫文は Бородин からソ連軍の機構，及び戦闘活動に関して詳細な情報を聞いた後，次のように表明した。《我々の軍隊にはこのようなものが存在していない。我々はこれらすべてを創り上げねばならない。》

この結論は非常に大きな，実際的な意義を持っていた。孫文の賛同を得て，国民革命軍内での政治工作が導入された。それが黄埔軍官学校で始められた時，カリキュラムの編成，及びこの政治工作の実行に重要な役割を果したのは，ソ連の顧問達と，小数の軍隊内の共産党員であった。

その当時の，この種の工作の重要性はいくら高く評価してもしすぎることはない。封建軍閥の旧中国軍は兵隊を自分の考えを持たない機械に変えようとした。当時の状況下では，中国の軍隊は極めて重要な役割を果し，権力の安定性の程度を決定していた。そこで孫文は革命の

宣伝というフレッシュな風を軍隊内に断固として導入した。彼は誠実な革命家として，大衆の自覚が成長していくことを恐れなかった。そしてその中に軍隊も含まれていた。さらに，共産党員は国民党の指導部のメンバーに加えられただけでなく，軍隊の指揮のメンバーにも加えられた。

政治教育の重要な要素になったのはソヴィエト　ロシアに対する友好的な態度，及びその国際的な役割を発展させることであった。ソ連の経験が中国人にとって極めて重大な意味を持っている，という孫文の数多くの言葉は現在，広く知られているので，私は国民党第一回大会での演説からそのような言葉の一つだけを引用しよう。《我々は危険な時期に生きている。我々は歴史の教訓を学ばなければならない。ロシア革命の成果は誰の目にも明らかであり，そこで我々はもし強力で，組織された，且つ統制ある党を建設しようとするなら，ロシア革命に学ばねばならない。》

10月9日，孫文は Бородин のためにレセプションを催した。それには広州政府の有力な人物が出席した。その際，孫文は短い演説をおこなって次のように述べた。《ここに列席のソ連の方々は内戦を短期間で成功裏に終え，世界の強国の中で，自己にふさわしい地位を占めた国からやって来られた。ソ連は中国にとってモデルとなるに値する国です。》

孫文は Бородин に自分や出席者のために，戦いの経験を伝えてくれるように頼んだ。特に，ロシアが成功したのは何によるのか，という点であった。

Бородин は広範囲にわたる内容豊富な演説をして，ソヴィエト　ロシアのことを詳しく語った。

ソ連の人々が孫文の《三民主義》をいかに理解しているかを語った彼の話しは出席者一同に深い感銘を与えた。

Бородин は言った。《ロシア革命の勝利の後に，私達はソヴィエト民主主義，つまりこの言葉の最も広義の意味での民主主義，何百万もの労働者，農民の民主主義を実現した。私達はソヴィエト制度を最も民主的な国家形態であると考えている。みなさんが中国の現実から出発して《民主主義》ということばを理解するのは当然のことである。ともかく，私達はみなさんの三民主義のうち二つ，即ち，民族，民権をすでに実現した。私達はソヴィエト　ロシアに於いて，自由な民族の国家，及び最も民主的な制度を築いた。第三の原理である社会主義に関しては，私達はその実現を可能にする政治的，経済的諸条件を創り上げた。》

Бородин は大衆内部での系統的な宣伝と扇動，及び軍隊内での政治教育の必要性を特にくわしく説いた。彼は国民党の主要な課題は全国を統一し，中国を独立国にすることであると強調した。

この演説に於いても，またその後の演説（10月16日の外務大臣の晩餐会，10月15日の広東省長，廖仲愷の所での演説）でも，さらにまた国民党の指導者達との会議に於いても，Бородин は大衆の革命運動を指導できるような民族解放のための，良く組織され，団結した党を創りあげる，という考えを粘り強く持ちだした。

Бородин がやって来る以前にすでに，中国共産党は一再ならず孫文や他の国民党の指導者達に，彼等の党の改組の必要性を立証しようと試みてきた。孫文は原則的にはこれに同意したが，実際的な政策の方は見合わせていた。Бородин が到着して初めて，改組の提言が実行に移されるようになった。

10月15日，市の公園で国民党員の大きな政治集会が開かれ，それに孫文と Бородин が出席した。孫文は党の偉大な思想に従うよう，個人的な目的の達成のために自分の党籍を利用しないよう，国民党員に訴えた。

《党は自己の革命的資質を失ってはならない。》と国民党のこの首脳は言った。彼は国民党の綱領の基礎である《三民主義》をくわしく説明し，国家の解放へ到る道を教えながら死んでいった革命家達の功績を思い出させた。

長い間，公開の集会に出席していなかった孫文のおこなった演説は出席者達に大きな感銘を与えた。

次いで Бородин が登壇し，国民党を中心として団結するように，と呼びかけた。彼はその中で次のように述べた。《国民党には民族の指導者が存在しており，それは孫文である。彼は中国を統一することができる人であり，また人民の支持のもとに外国の帝国主義者，及び中国の軍閥から国家を解放することのできる人物である。》

Бородин の演説は聴衆を熱狂させた。私達が聞いたところによると，初めてソヴィエト　ロシアの代表を見た中国の労働者達に，それはあざやかな印象を与えたものであった。

党の改組に関する国民党指導部の考え方を注意深く知ってから，Бородин は基本的に5つの点に集約できる具体的な提案をした。

1.　国民党の改組の前に，その綱領を再検討し，それを人民大衆に広く普及すること。綱領に応じて党を改組する必要性について，一致した意見が作り出せるようにつとめること。

2. 国民党規約を作成すること。

3. 広州に党の堅固な団結した核を組織し，第二のセンターを上海につくり，さらに全国に国民党の地方組織をつくること。

4. たとえ南方の4つの省だけでも，それらの代表者の参加を得て，できるだけ早く党の大会を召集し，党の綱領と規約を審議し，それを承認し，新しい執行委員会のメンバーを選出すること。

広州に於ける党の改組にかかわる仕事を行うため，国民党員の中から最良の，最も活動的なメンバーを選び出すこと。選出された人々は市のすべての地区に党支部を作らねばならない。またこれらの地区から大会へ代表者を送らねばならない。

5. 大会が召集される際，すべての代議員に，今後やらねばならないこと，また新たに下部組織をいかにつくりあげたらいいかを理解させること。

Бородин の勧告は受け入れられた。孫文は国民党改組宣言を発表した。

孫文の指導のもとにある創立グループは全党的決定を行う準備のための予備的な仕事をした。10月25日，約50名の国民党の有力メンバーが次のような問題を審議する目的で集まった。

1. 国民党の改組
2. 改組を推進するための計画と機構
3. 国民党の綱領と規約
4. 4ないし5つの省の代表の参加を得ての国民党大会の召集
5. 改組委員会委員の選出

会議を開いたのは広州省長廖仲愷であった。第一の問題，及び規約案について報告をしたのは Бородин であった。彼の演説の基調となったのは全世界の二つのグループの国々の間に進行しつつある戦いのテーマであった。二つのグループとは抑圧者と被抑圧者の国々である。力の統一が死活の問題であることを彼は強調した。被抑圧国家は抑圧者と戦うために団結しなければならない。

決定的な戦いをするためにロシアに於いては，ボルシェビキの党が人民大衆を統一した。中国に於いて同様の課題を遂行するためには，国民党は改組され，民衆が理解できるような革命的綱領を採用し，あらゆる可能な手段を用いてこの綱領を広く大衆に知らせなければならない。強力な，且つ良く組織された党のみが全国の統一と独立を達成することができる。

Бородин の次に孫文が登壇し，それから討論が始まった。重大な反対意見は発言されなかった。孫文の計画による国民党の改組に対して，廖仲愷やその他の人が賛成意見を述べた。反対派の意見は改組の原則に対してではなく，主として，委員会のメンバーとなる個々の人物に対する反対であり，それとても，恐らくは自分自身が委員会に入れなかったからであろう。

国民党大会へ向けての準備は1カ月半行われた。10月28日，孫文は会議を召集した。そこで，国民党第一回全国大会の準備のための臨時中央執行委員会が組織された。この委員会に共産党の代表が加えられた。

臨時中央執行委員会は国民党員の登録を始め，また共産党の助力を得て，これまで存在していなかった下部の党組織をつくり始めた。上海やその他の大都市には，国民党中央執行委員会事務局が置かれた。

11月の終りに共産党員も加わって開かれた国民党活動者会議の一つで，孫文は党の改組のプログラムとなる演説を行った。党を人民大衆から引き離すようにさせていた国民党のこれまでの戦術を批判して，彼は次のように述べた。《これまでの私達の党は海外の中国人移民にのみ頼ってきた。何故なら党員の大多数は他国に存在し，中国内の私達の力は極めて弱かったからである。それ故，私達は先ず武装兵力にのみ頼って中国内で戦ってきたのである。もし武装兵力が勝てば私達の党も勝利をおさめ，もし武装兵力（即ち，孫文を支持している軍閥—Чередов）が敗北を喫すると私達の党も敗北を喫した。それ故，党改組の唯一の目的は今後，私達は我が党固有の力に依存するということである。党自身の力とは人民の意識と力である。今後，私達の党は人民の力を党の力に変え，人民の力を闘争のために使わなければならない。

国民党の改組の基本的原則は前に述べた宣言，及び国民党の新しい綱領の草案の中に反映されていた。

12月，色々な地域で会議が開かれ，大会に向けての代議員が選出された。

10月30日，初めて国民党改組の委員会が召集された。孫文によって承認された人々からなる委員会の中には，廖仲愷，林森，孫佛，譚平山，等が入っていた。候補委員には李大釗，汪精衛，シィエインパ等であった。全地区における党員再登録のための12名から成る委員会がつくられた。

11月1日から8日の間に，広州で，2649名の国民党員が登録された。臨時中央委員会は広州市をいくつかの地区に分け，これらの地区組織の委員会のメンバーを承認した。

12月9日，委員会の総会が開かれ，その際，地区組織

の規定，及び国民党の地方支部の問題が審議された。広州では全部で12の地区と60の国民党支部がつくられた。

大会の準備はかなり好調に進められていた。だが突然，広州の上に《軍事的雷雨》が起こった。

11月12日，臨時中央委員会が開かれる直前，陳炯明将軍の率いる軍隊が石竜を占領し，政府軍が広州に退却する，という不穏なニュースが入った。その会議には廖仲愷，呉鉄成以外の全メンバーが出席した。Бородин は戦線の破局的状況にもかかわらず，会議を開くべきかどうか，意見を求められた。彼は明確な作戦行動の必要性を強調してから《開くべきです》と答えた。そこで，戦線の状況を審議するために11月13日の朝，地区委員会を開くこと，そして広州防備のために国民党員を動員すること，という決議が採択された。すぐに自動車が呼ばれ，全中央執行委員が各地へ派遣された。

その後，Бородин と孫文の会談が行われた。Бородин は孫文に自己の持っている作戦計画を知らせた。孫文はすべてそれに賛成し，あらゆる支持を約束した。

Бородин の意見によれば，戦線に於ける敗北の主な理由は農民内での国民党の政治工作が弱いことであり，農民達は戦いに対して消極的な態度をとり，時には敵を助けることもあったことである。孫文は戦線を訪れてみて事態をそのように判断することは正しいと確信している，と述べて Бородин の意見に同意した。孫文はまた，次のように希望を述べた：もし6ケ月ほど持ちこたえることができるなら，今着手している国民党改組の活動で発揮されているそのエネルギーで，政府の立場を強化し，広東省を中国の民族革命運動の橋頭堡に変えることができるだろう。

孫文は1924年1月20日を国民党第一回大会の開催日とすることに決定した。

各省から6人の代表が大会に参加することになった。そのうち3人は選出議員であり，3人は孫文が指名した者であった。これまで党には上部機関だけがあって，下部組織が存在していなかった。国民党の歴史の上で，今まで一度も大会は開かれなかった。長い間，国民党の名において出されてきた宣言はすべて，孫文個人から出されたものであった。地方の国民党員や政治亡命をして海外にいる党員は中国の民族革命運動の課題，及び闘争の方法についてはっきりと理解することができなかった。孫文の革命教義を各人各様に解釈していた。大会の準備が極めて複雑で，むずかしいものであったのは少しも不思議なことではなかった。

11月13日の朝，陳炯明の攻撃があったにもかかわらず，臨時中央執行委員会は全国地区委員会を召集した。その会議には中央執行委員会のメンバーが殆んど出席した。廖仲愷が議長を勤めた。彼は現状について簡単に触れた後，Бородин に二，三話しをしてもらいたいと頼んだ。Бородин はそれまで，国民党や政府の状況について慎重に話していたが，今や戦線の破局的状況を知って，孫文の完全なる同意を得てはっきりと自己の意見を述べ，重大ないくつかの提案をした。彼は次のように語った。《もし国民党の地区組織が1年前につくられていたなら，現在起こりつつある，極めて危険な状況は許しはしなかったのであろう。一晩で動員できるのは単に地区委員会だけではなかったであろう。何万人もの人々が朝，戦線に赴き，反動的行為は容易に撃退されたであろう。だが，私がこの会議にやって来たのは過去の事を批判するためではなく，ロシア人民が同じような状況下で敵に打勝つことができた戦争の経験を諸君に伝えるためである。

国民党はそれ自体，客観的な革命的資質を持っているにもかかわらず，相変わらず《宙ぶらりん》で，何らかの一つの階級，あるいは複数の階級に立脚していない。主として農民からなる広東省の住民は戦線で起こっている戦闘に対して消極的な態度をとっている。最近，あちこちで農民蜂起が起こっている。これは残念なことに敵に役立っている。私がこの集会に来る途中，鉄道線路に沿って，飢えた，ボロを着た，疲れきった兵士の大群が戦線から我れがちに逃げて来るのを見た。通訳が彼らに，何故戦線を放棄したかを尋ねると，彼らの答えは，農民達の態度が極めて非友好的で，食料を供給することを全く拒絶した，ということであった。農民達が私達の軍隊を暖かく迎えてくれるように，一体どのようなことが為されてきただろうか。中国の偉大な将来に対する諸君の信念で，広東の農民達が諸君を援助するようになると思うか。農民の半数は驚くべき困難な条件の下で，わずかの畑を耕している。彼らは地主に高い小作料を払わねばならず，また政府に対しても，自分達には全く理解できないばかりか不必要と考えている戦争の遂行のために，高い税金を払わざるを得ない。諸君は今まで農民の援助のために何一つやってはいない。そのために，諸君の党の最も重要な砦の一つを失っている。政府はただちに，広東の農民達に土地を分配する法令を公布すべきである。私は今，この法令について詳しくは触れないが，この法令の中に，地主の土地を没収し，それを実際に耕作している農民に分配すること，及びこの土地に対する

税金は農民の経済状態の崩壊ではなく発展を考慮していることを明確に示さなければならない。諸君はできるだけ多数の党員を集め，自転車，バイク，船，自動車に乗って，この法令を携え，農民達のもとへ出掛けねばならねい。

第二の諸君の砦は広州の35万の男女労働者である。労働者は通勤途上，戦線から逃げ帰って来る兵士達を見ても，何が起っているのか全く関心を示さない。これは驚くべきことではないか。諸君の政府が存在してきたこの全期間に，一度として労働者にビラの一枚さえも渡していない。諸君は労働者の集会を一度も開いていない。諸君は労働組合が諸君にいくらかの共感を示したことで満足している。彼等が共感を示すのは恐らく，諸君が反動派と違って彼等の階級闘争に特に干渉しないからであろう。かくて，民族革命闘争のための支えとなっており，諸君の権力の主要な砦となり得るものが諸君の足元から逃げて行ってしまっている。もし国民党の目的や望みが中国の労働者の利害に反すをものであるなら，彼等が今日示している無関心さは全くもっともなものである。だが，諸君の党の勝利が必ずや最後には，人民の勝利になるに違いないのにもかかわらず，その党が労働者階級から完全に離れていることにこそ，現在の状況の悲劇が存在しているのである。

両者のこの結びつきを実現するためには，労働者に対して社会立法に関する法令を作らなければならない。私はこの法令について詳しくは語らない。細部の検討は労働者自身の代表に任せた方がよいだろうが，一日8時間労働制の導入，最低賃金制の確立，その他，どの社会主義政党でも持っている綱領の中にうたわれている最低限度の労働者の要求は特に重要視されなければならない。私は地区委員会のこの集会が市当局とコンタクトして，次のことを行うよう提案する。それは法令の意味を説明し，労働組合から代表を選び，彼等と協力して法令の細部を作成するために，全工場を登録することである。

広東省，特に広州市の小産業ブルジョアジーが農民だけではなく労働者の福祉に関心を持つ立場にあったことは疑いもないことである。より高い賃金，より短い労働時間は商品に対する需要の増大を意味している。農民のより大きな購買力もまた，小ブルジョアジーにとって商売の拡大を意味している。

現在，小ブルジョアジーが積極的に諸君を支持していないのは，主として，諸君の政権から何も得ることがないからである。今日，商人達は自分の持っている商品が全て，取り上げられてしまうのではないか，と恐れて店を閉めている。これではパニックを増大させるばかりである。提案されている法令から小ブルジョアジーが得られる利益をはっきり指摘する宣言を出して，すぐに彼等に訴えることが必要である。そうすれば，反動家達は国民党の3本の支え，即ち農民，労働者，小ブルジョアジーの最後の反撃を受けることを知って，広東を敢て攻撃しなくなるような条件がつくられるであろう。

百万長者である大資本家や地主については今，ここで話す必要はない。彼等は沙面の租借地や香港へ逃げてしまっている。》

Бородин は演説の最後に，広州に迫っている戦争の危険を取り除くために，国民党の義勇軍部隊を創設することを勧めた。それらの部隊を指揮するためには，直接戦闘経験のない国民党の将校に頼まざるを得なかった。

Бородин の演説を廖仲愷が一句一句，英語から中国語に翻訳した。その演説は特に共産党のメンバーと社会主義青年団員から，熱狂的な歓迎を受けた。だが，右派を含むその他の多くの国民党の指導者達もまた，Бородин の提案を支持した。ブルジョアジーは人民大衆が事態を収拾できるようなことには全て，同意した。

後に，Бородин はその後の，つまり11月14日～19日の事柄を詳しく私達に話してくれた。

各地区委員会の統一集会は11月14日の朝，開かれた。政府を代表して法令を公布することになっていた廖仲愷が予期に反して，現われなかった。彼は崩壊しつつある戦線に関連した緊急事態に忙殺されているのか，あるいは，すでに同意されている法令を採択することを政府が，まだ渋っているからであろう。Бородин は廖仲愷と孫文に連絡をとろうと何回か試みたが，うまくいかなかった。

Бородин は後で知ったのだが，その時，孫文は戦線に赴いていたのであった。この時，彼は恐らく陳炯明将軍の軍隊が現われる可能性のあるトンシャン地区に停泊していた巡洋艦に乗っていたのであろう。

それでもなお，各地区委員会集会は続けられた。幹部会には数人の執行委員がおり，その中に孫佛もいた。彼は政府が法令を採択したかどうかの Бородин の質問に対して，自分はその事を些かも疑っていない，と答えた。

次の各地区委員会の集会は11月15日の朝，開かれた。開会後，一時間経っても廖仲愷は依然として姿を見せなかった。11時，Бородин は孫文の司令部へ，次のような手紙を持たせて急使を派遣した。《各地区委員会委員の集会は14日の晩，政府が三つの法令を公布すること

に同意したことを，各地区委員会に伝えた。政府の最終的な決定を翌日まで待っている。廖仲愷は11月13日，政府を代表して法令の公布を発表したが，その翌日になっても集会に姿を現わさない。現在，国民党が広州で展開している工作には，極めて真剣に対処しなければならないことを考慮して，私は各地区委員会によって始められた集会を続行するために，政府の代表者を直ちに送ることを要請する。》

半時間後に廖仲愷がやって来た。彼は手に先に述べたБородин の手紙と孫文のメモを持っていた。孫文が法案を全体の討論に持ち出すことを，前日の晩長い間迷っていたことがはっきりした。廖仲愷の名誉のために，次のことを述べておかねばならない。彼は前日行われた地区集会の一つで，法令に関して非常に説得力のある説明を行った。

各地区委員会の集会は各地区の報告から始まった。全部で540人が義勇兵として，進んで戦線に赴いたこと，また法令の草案は到る所で熱烈に歓迎されたことがそれによって明らかとなった。11と12地区の報告が全体の調和を破った。11地区の指導者達はその法令が《広東のソヴィエト化》を意味しているようだ，という理由でそれに反対した。だが，49人のメンバーのうち29人が義勇兵として登録したことがすぐに判明した。従って，この委員会の立場は若干，不明確であった。《ソヴィエト化》の危険を恐れる同様な考えを，シンガポールからやって来た海外の国民党員の代表者が発言した。メンバーが労働者である12地区では，労働立法に関する法令は完全な支持を受けた。そこでは300人が義勇兵に登録した。しかし，地区委員会は土地に関する法令に反対した。報告者が受けた質問を聞いて，聴衆が法令の内容を全く理解していないことがわかった。彼等には政府があたかも共同体を破壊して，農民から土地を取り上げようとしているように思われた。11月15日の会議で，廖仲愷は政府の政策を説明し，《ソヴィエト化》についての悪意ある噂を広めている人々に，鋭い反駁を加えた。現在まで国民党は単に立派な原則を打ち出しただけで，そのうちの一つも実現していない。しかし，この三つの法令は国民党の活動が今後，発展していくための基礎となることを立証した。

Бородин は孫文政府の法令と，所謂《ソヴィエト化》との差を集会で説明した。Бородин は次のように言った。《ソヴィエト化を問題にする必要はない。国民党が直面している歴史的課題は中国を統一し，反植民地の状態から解放することである。この点に関しても，この法令は有効であろう。》

集会は全義勇軍を本部，つまり国民党司令部に配置し，今後，《民族師団》をつくるために，すぐに軍事訓練を始めることを満場一致で決議した。義勇軍に登録しなかったり，また軍隊に適さない党員は戦線にいる，どこかの部隊に援助を与えたり，それが必要とするあらゆる物の供給を組織するよう命ぜられた。

11月16日午前7時，孫文の秘書が Бородин にすぐ司令部へ来るように，という依頼をした。この会見について，Бородин は私達に次のように語った。《孫文が私を迎えた時，彼はびっしり書き込まれた一山のビラを手に持っていた。普段，孫文は重大な会話を始める前には，数秒間黙っていたものであったが，今回は，大きな善良な目で私を見つめながら，すぐに話し始めた。《今，私は日本の内閣にいる私の友人に手紙を書いている。》敵が広州のすぐ近くまで来ているのに，彼はこんな手紙を書いているのは奇妙なことだ，と私は思った。孫文は続けた。《ロシア問題に関して彼等は多くの愚かなことをやっている，と書いている。そのような政策は彼等にとって極めて不利益なものであることを彼等に指摘している。彼等はアメリカ，英国，その他の国の真似をしてはならない。日本はロシア問題では，全く独自の政策を遂行し，ソヴィエト　ロシアを承認しなければならない。》私は本当のところ，何が問題になっているのか，すぐにはわからなかった。何故，こんなに急いで私を呼び出す必要が彼にあったのか。私達は昨晩遅く，会っているのにもかかわらず，今朝7時に突然，私に来るように呼んだ。孫文が法令について話し始めてから，彼のこの性急さが私にも解ってきた。一体，何が彼を心配させたのか。

実は，国民党中央執行委員会の右派の委員が彼を訪問し，その法令を断念するよう説得しようとしたのであった。

彼等の議論の主な点は次のようなことであった。その法令によって，海外の国民党員は仕事が極めてやりにくくなるだろう。さらに，《党がボルシェビキ化した》ということを口実にして，彼等が追放される可能性がある。

この法令はどうなるのか，という私の質問に対して孫文は答えた。《私は今でも，労働者のための社会立法，及び小ブルジョアジーの状態を改善するための法令を実現させることに賛成している。土地に関する法令については，先ず農民と接触し，彼等のニーズを明らかにすること，だが，最も重要なのは，この法令を農民達に説明

するための宣伝隊をつくることを提案する。》

11月16日，廖仲愷は地区委員会集会を開き，三つの草案全部を読み上げた。そして，土地に関する法令をさらに審議し，農民の現状に関してのデータを点検し，彼等のニーズを解明するための委員会を選出することを提案した。この予備工作の後，委員会は政府の承認を得るための最終的を草案を提出することになっていた。

右派はこれを政府側の明らかな譲歩とみて，この機会を利用しよう，と決めた。彼等は今になって，この三つの法令をさらに審議するために，特別委員会に送り，この委員会の中に三つのそれぞれの法案を受持つ委員会をつくる，という提案をあわてて持ち出した。かくて，右派の真の目的が明らかになった。彼等は手続き上の口実を利用して，その法令を葬り去ろうとした。残念なことに，廖仲愷にはこの戦術が解らず，彼等の提案に同意した。

もし，孫文が軍事に忙殺されて，自ら国民党大会の準備に参加できなければ，右派の反対派は積極的にこの仕事全体を妨害するであろう，と Бородин は悟った。何人かの国民党の古い党員は党改組の過程で，自分達が議長とか書記のような有利なポストを失うかも知れない，と悟った。そうなれば，彼等は仕事をしなければならず，また党の規律に服すことが義務づけられるであろう。

当時，孫文のもとに，自分を国民党員だと名のって，自分の商業行為をやり易くすることだけが目的である《信奉者》がいた。しかし，このことは孫文に対して陰謀を企む上で妨げとはならなかった。党の指導者，孫文はこのことに少しも不安を持たなかった：この世の中には悪党は結構いるものですよ。孫文の注意を党内情勢に向けさせようとする Бородин の試みは，初めのうちはうくいかなかった。

かくて，国民党再編成を目指して，精力的な活動が始まった。広州，及び上海のすべての地区に地方組織がつくられ，何百，何千の党員がそこに入党していた。臨時中央執行委員会は法令を公布し，活動家達は皆，張りつめた気持で働いた。組織化の最初の結果は急速にあらわれ始めた：党は戦線を助けたり，新しい民主的立法をつくる等の事をした。だが組織化の結果として最も主要なことは，国民党のまわりに働く人々が絶えず集まってきたことである。臨時中央執行委員会はこの仕事の過程について，孫文に全く報告をしなかった。というのは，孫文は軍隊の戦闘行為の方に専ら携わっていたからである。

広州の収入が主として最強の軍隊である雲南軍に使われていることを知って，孫文は次のような戦術をとった：雲南軍が自分達の稼ぎ場を守るために戦うだろう，と期待して，孫文は自分の替りに雲南軍の将軍を進撃して来る陳炯明の軍隊に対抗する軍隊の指揮官に任命した。まさしくこれは正しかった。雲南軍は陳炯明の軍隊を撃破し，孫文が認めたように，もう少しで《広東のウォーターロー》になるところだった広州を厚く覆っていた暗雲は晴れ上った。

孫文は楊希閔将軍を任命することによって，事実上最高司令官であることを止め，戦線に行く必要がなくなり，国民党改組のためにより多くの時間を当てることができた。

11月18日の朝，中国共産党，及び中国社会主義青年団の広州委員会の集会が開かれた。その集会は広州に於ける国民党改組の結果を審議し，さらに共産党員が国民党内でより一層奮闘努力し，右派の反対勢力と闘うという決議を採択した。言うまでもなく，右派の反対活動は国民党の改組だけでなく，共産党員にも向けられたものであった。共産党員は国民党内での自分達の影響力は宣言に由るのではなく，国民党諸組織内での精力的な活動に由るものであること知った。国民党地区委員会の40～50人の指導者のうち9人が共産党員と中国社会主義青年団員であった。第1地区には30人の共産党員，第10地区では7人，第2地区は3人，第3，第4，第5，第6，第11地区には各1人，だが，残りの地区には1人の共産党員もいなかった。集会は共産党のいない地区には少なくとも，1人の党員を移してくること，また最小3人の党員が活動している地区では支部をつくるという決議を採択した。各支部の書記達は他の地区の代議員と共に，中国共産党市書記局をつくった。一週に一度，書記局の会議で，国民党地区組織内での共産党員の活動の諸問題が審議された。先の国民党市組織の各地区委員会集会で，援助に関する決議が採択されていた。国民党地区組織の各々が戦線の部隊の一つを援助することになった。これに応じて広州の共産党は二つの最大の地区共産党組織に対して，雲南，及び湖南軍の部隊に援助を与えるよう決めた。直ちに，数千ドルの金，食料，衣料等を集め，国民党中央執行委員会の定めた方法で，それぞれの地区の旗を付けてこれら全部を戦線へ送り，その後も，援助した部隊と定期的に連絡をとることが決められた。

その後，集会は国民党内の右派反対勢力との闘争の問題を審議し，大衆内の政治工作の強化こそ，この問題解

決の唯一の道である，という結論に万場一致で達した。

11月18日午後，Бородин と孫文の両者が再度，会談した。Бородин は次のように述べた。《当時，広州の陥落は時間の問題と思われた。陳炯明の軍隊は広州・韶関間の鉄道に沿って進撃し，北方から市へ突入の構えを見せた。別動隊は市の東方，数キロの所で，広州，石竜間の鉄道の駅をいくつか占領した。これらの戦線での戦いの結果が広州の運命，同時にまた孫文の政府の運命をも左右した。どちらへ逃げるべきかを考える以外方法がないような時期に丁度，私はこの司令部に現われた。孫文は日本へ発つ準備をしていた。香港にも上海にも英国人は自分を住まわせないだろうと彼は思った。これらのことを考え合わせて，私は日本を通り，ウラジオストック，さらにそこからモスクワへ行くように招待した。彼は喜んでこの招待に応じ，ベルリンにも行きたいものだ，と言った。》

政治的避難先に関する Бородин のこの提案は全く正式のものであった。孫文は感謝してこの提案を受け入れた。勿論，孫文は以前と同様に，アジアの一国に落着くことができたであろう。今回はどうも，ソ連の経験を自ら知る可能性に彼は引きつけられたようであった。

勿論，広東の革命基地が持ちこたえられ，強化されたのは良いことであるが，孫文の旅行が実現できない運命にあったことは，何と残念なことであろう。それはいかに実り多い，有益なものとなったことであろうか。

Бородин は続けた。《私は孫文に言った。貴方がまだこの部屋に居て，敵がまだ広東に突入して来ない間，つまり，希望がまだ存在している間，大衆の中で党活動を続けなければならない。混乱を利用して，貴方の計画をサボタージュすることを誰にも許してはならない。孫文は私の言うことを聞いたが，彼の思いはどこか戦線にあったように，私には感じられた。国民党右派の反対派には注意を払うだけの価値がない，何故なら，彼等は何らの影響力を持っていない，と彼は考えていた。》

三つの法案に関する共産党の提案は通らなかった。だが，それらを審議しただけでも，広州の防衛力の強化に大きな役割を果した。労働者，農民，兵士，小ブルジョアジーは自分達のつらい運命を軽くしたい，と強く感じていたので，三つの法令の一つに言及しただけでも，全体の賛同を引き起こした。

働く人々は活気ずき，法令の採択を予期して，広州防衛隊に参加し，軍隊を援助し始めた。兵士達の方でも民衆の支持を感じ，少し元気ずいた。将軍達は広州で集めることのできた豊富な税金を失いたくないため，兵士達の士気を利用しようとした。反撃に移る命令が出された。9月18日夜近く，広東軍（この中で決定的な役割を果したのは范石生の雲南軍団であった）は敵に決定的な打撃を与え，市から彼等を撃退した。

孫文は直ちに，敵が粉砕された，と中央執行委員会に伝えた。彼は，間もなく広東省全体から非友好的な軍隊が姿を消し，その時は広州政府軍が北伐を始めることができるであろう，という希望を表明した。

11月19日，孫文は再び Бородин を自分の司令部に呼び出した。彼は綱領草案の理論的個所に，国民党の原理は孫文によってずっと以前につくられていた，という事実を記すように要請した。孫文はいかに自分の理論にとりくみ，また絶えず，それを実現するために戦ってきたかを，くわしく Бородин に語った。

Бородин はこれに頷いて，次のように言った。私の考えでは，孫文の実際的な指導がなかったら，誤ちは避けられなかったであろう。もし，孫文が常に中央執行委員会の活動に参与していれば起こらなかったと思われるような若干の誤ちが，すでに為されている。今後，中央執行委員会の会議には孫文が出席し，彼の議長の下で会議を開くことが両者の間で合意された。

11月19日の夜，孫文の司令部で中央執行委員会の会議が開かれた。出席者全員の士気が少し高まっていた：戦線からのニュースは元気ずけるものであった。右派の指導者だけはそう嬉しそうではなかった。彼等はこれから後は，孫文自らの出席の下で，反対派の指導者として行動しなければならなかった。

綱領の問題が第1に審議された。その草案が載せられる筈になっていた新聞のゲラが机の上にあった。Бородин は孫文の指示に基いて，国民党の新旧綱領の原則の間には，継続性があることを草案内に明確に述べるよう勧めた。この草案は孫文の三民主義を具体化したものであることを，前文で説明しなければならない。この提案は万場一致で採択された。廖仲愷は筆を執って，その決議を書き誌した。孫文がそれを読み上げ，出席者全員が賛成した。

第2の問題は国民党義勇軍師団の組織と軍官学校の設立であった。審議の末，当分は政治基礎教育，及び軍事教育の夜間学習にとどめておくことが決議された。
第3に採択されたのは，孫文の議長のもとに各地からの報告を聞き，新しい訓令を与えるために，彼の司令部に国民党地区委員会を召集する決議であった。

この時，戦線から数人の将軍がやって来て，孫文は彼等と一緒に隣の部屋へ行った。会議は続けられた。

第4の議題は上海での政治工作であった。これより少し前に，中央執行委員会は上海に廖仲愷を派遣することを決めていた。その際，Бородин も彼と同行することになっていた。それは上海での政治工作の組織化，国民党大会召集への準備，日刊の国民党の新聞を発行する，という決議を実行するためであった。最近起こった軍事事件のために，この旅行は不可能になった。それ以外に，廖仲愷と Бородин が出発すれば，それは逃亡である，とか孫文政府が絶望的な状態に置かれていることの証明である，と解釈される可能性もあった。困難な日々が続く間は，全力を広州に集中しなければならなかった。今や，勝利をかち得た後，上海への出達が可能になった。

第5の議題は法令についてであった。中央執行委員会は土地の法案の作成を廖仲愷に，中間層に対してはシュチョンツァンに，労働立法に関してはシェインパーに委託することを決めた。後者の二法案の答申には一週間の期限が定められたが，廖仲愷には土地に関する法令（農民運動の組織，農民のニーズに関する資料の収集，農村に対する宣伝委員の養成等）の作成のために，今後あらゆる必要な仕事をするよう命ぜられた。

間もなく，廖仲愷と Бородин は上海に向け出達した。Бородин は上海から帰って来ると，私達にそこでの状況を詳しく語ってくれた。私の手元に残っている，この話しのメモから判断すると，中国労働運動のこの最大のセンターでは，政治状況は極めて緊張したものであった。

1923年，12月23日，国民党上海組織の総会が開かれた。上海には当時，下部組織も党員登録も一般に行われていなかったため，総会を前にして，国民党員の再登録が公布された。しかし，それは遅々として進まなかった。そのため，それが終了するのを待ちおおせず，国民党の活動家が個人的に知っている人にのみ招待状を送ることに決められた。

この時までにすでに，多数の共産党員や中国社会主義青年団が国民党に入っていた。代議員の中には瞿秋白もいた。

広州の経験を考慮して，次のような議事日程が決められた。

1.　開会式典では，国民党旗，及び孫文の肖像に敬礼をする。

2.　議長の開会のことば（汪精衛）

3.　国民党改組に関する胡漢民の報告

4.　広州に於ける国民党改組の工作に関する Бородин の報告

5.　国民党第一回大会への代議員の選出

6.　上海の7つの地区組織への党員の割当

瞿秋白はこの総会に対する自分の印象を次のように語っている。《総会の前の情勢は極めて複雑なものであり，出席者は種々様々であった。しかし，それでも熱狂の高潮は感じられた。まあ考えてもみたまえ！この20年間の国民党の全歴史を通じて一度も，総会が開かれていないのだ。彼等はみんな，少し高揚した，お祭り気分でやって来た。多数の船員，手工業者，労働者，鉄道員，学生，主に上海大学の学生がやって来た。教員は少数であり，商人はさらに少なかった。到る所に，国民党のバッジを付けた幹事がいた。彼等のうちの多くは共産党員や学生運動のメンバーであった。》

きちんとした身なりの，40才にしては若々しい，ハンサムな汪精衛と，無愛想で，ペダンチックな様子をした数学の教員である胡漢民を聴衆は歓迎した。この両人こそ，孫文の最も親密な協力者であり，生徒であり，また後継者である，という噂を彼等の仲間がまき散らした。彼等の《驚くべき革命的な資質》についての神話が語られた。

汪精衛とは1924年，1927年，1928年に私は会うことになるのだが，彼はいつも気取った様子をし，主人役の恋人の役を演じて甘やかされている俳優に似ていた。

1925年，廖仲愷の葬式の重苦しい日のことが思い出される。反動派によって残忍な殺され方をした廖仲愷の棺の横に立って，汪精衛は偽善的に深い悲しみを表わし，不自然な態度で足を鳴らし，拳を振って暗殺者をおどした。これは単に俳優のジェスチャーにすぎなかった。概して，汪精衛は特に口やかましいというタイプではなかった。事実，彼は金持の妻の言うなりになり，妻の機嫌をとり，何の資格もないのに妻を国民党大会の上海選出代議員にさせようとさえした。

胡漢民はまた別のタイプの俳優に属していた。彼は口数の多い論客で，長々と議論したり，お説教をするのが好きだった。機嫌をとるような彼の動作，固く結んだ薄い唇は何か，イエズス会士風な偽善を感じさせた。胡漢民は総会で，他の人と同じように廖仲愷に懇ろに挨拶した。しかし，このことは彼が1年半後に，この立派な革命家の暗殺を計画し，広東省長の地位を獲得し，孫文によって宣言された共産党との合作の政策に反対することの妨げにならなかった。だが，彼はまさにこの政策を忘れ難い上海の総会で，そのすぐ前に擁護したのであった。

当時，汪精衛と胡漢民が政治的冒険主義者であり，二枚舌を使う裏切り者であることを誰も知らず，彼等を左

派と考えていた。孫文がロシアの社会主義革命を心から敬服していることを彼等は知っていた。彼等は両者とも，個人的な政治的出世のために，ある時期まで，孫文の同志である振をしていた。

汪精衛と胡漢民は党の改組に関して，孫文の方針を基本的には支持していた。汪精衛は次のように述べている。《孫の言葉によれば，我々は満州王朝を打倒して，専制制度から自由になったが，まだ，外国の支配から中国を解放していない。中国人民は未だ，完全には独立していない。民主主義，社会主義に関しては，これらの事を人民に殆んど行っていない。だが，これは我々の原則が中国にとって不適当であることを意味しているのではなく，組織の面で，我々の力が未だ極めて弱いことを意味している。》

ところで，ここに偽善者胡漢民を示す一例となる言葉がある：

《孫文は唯一人が我が党の原則を守るために闘っている。だが，国民党員は彼を支持することはできない。何故なら，彼等には組織がないからである。各人は国民党に入党し，その為に働こうという気持になっているが，党の組織は貧弱で，党員は何から始めていいのか，何をすべきなのか解っていない。恐らく，彼等は党を支えたいのであろうが，彼等にはその可能性がない。さらに，我が党には今まで，そもそも政治路線がなかった。それ故，統一的な行動があり得なかった。国民党は今まで，自分の原則を守るために闘うことができなかった。》

瞿秋白が述べているように，胡漢民のこの言葉は一斉の拍手で迎えられた。

背の低い，陽気な目をした，活動的な廖仲愷は総会の参加者に，熱狂的に迎えられた。孫文が廖仲愷を上海に送ったのは，広東省長でもある彼がこの上海地区に国民党改組の経験を伝えるためであった。廖仲愷は彼の演説の中で，党の基礎を成す地区党組織の建設の必要性を表明した。彼は言った。《以前，組織工作を行ったのは，私達の場合は，ただ中央執行委員会だけであった。それ以外の党員は実際には何の活動もしなかった。下部組織をつくることによって，各党員が党の政治活動に参加するための条件を整えることができる。》

上海に7つの地区組織をつくり，その各委員会の委員を選出することが決議された。会議は無政府主義的な常軌を逸した行為なしではすまされなかった。孫ホンイと名乗る男が組織する，一群の無頼漢どもがこの会議にとび込んで来た。彼は自分を孫文の信奉者であるのみならず，《孫文の子供》である，とさえ宣言した。一群の無頼漢は彼を党大会の代議員に選ぶことを要求したが，恥をかかされてホールから追放された。

各支部で，月50ドル支払われる書記及びオルグを選ぶという国民党中央執行委員会の決議を，若干の政治屋どもが利用できたことに注意を向けなければならない。党内にうまくもぐり込んできた連中は，もし何とか架空の支部をでっち上げることができれば，自分達は金を受け取り，党大会にうまく出席できると，心に決めた。というのは，各支部，及び党員50人ごとに1人の代議員を送り出す権利があったからである。疑いたくなる程の早いペースで，新しい支部がどんどん発生し始めた。“偽”の国民党員の数がますます増大していった。出世主義者達は自分の一族，同郷人，同僚，傭人さえもすべて，国民党員だと申告した。

間もなく，中央執行委員会はその決議を撤回せざるを得なかった。唯一つ残された有給の職務は地区の書記のみであった。これによって，党大会前の状況は著しく健全化された。

中国共産党は国民党改組の事業を整えるために，多くの努力をした。例えば，共産党員は直接，国民党中央執行委員会の命に服する革命の拠点，所謂る《特別小地区》を広州につくった。この種の組織の1つは港湾の船員を統一し，第2の組織は広州，漢口鉄道の労働者を，第3の組織は兵器廠の労働者を統一した。

同時に，共産党員は国民党の地区委員会，及び下部組織で活発に働き，これによって彼等の影響力を強めた。共産党員は労働者を組織し，クラブや協会をつくり，宣伝工作を行い，クラブ員を社会的活動に向うようにさせた。また彼らは市のすべての労働組合に参加した。同様な活動は中国社会主義青年団の学生達によっても行われた。

当時，中国共産党の党員数は多くなかった：わずか500～600人であった。党員の多くは自主的な政治活動を行うほど充分に，訓練がなされていなかった。共産党中央委員会は党員の思想的レベルを高めるために，巨大な組織的，教育的工作を実行しなければならなかった。

共産党は広州，及び上海に於いて，住民の間に巾広い活動を展開した。中国共産党の活動のスケールや性格がどんなものであったかを，1924年1月，上海で開かれた中国共産党と中国社会主義青年団との合同会議の一つの議定書から判断することができる。その会議に出席したのは瞿秋白，Бородин，また当時の共産党書記であった陳独秀であった。その会議で問題となったのは国民党の改組であった。中国共産党中央委員会，社会主義青年

団，中国共産党中央執行委員会及び社会主義青年団の統一委員会の報告が読み上げられた。

集会の参加者を前にして Бородин が演説をした。彼は国民党の政治顧問としての，自分の仕事について詳細に語った。彼は言った。

《現在，重要な事は民族革命運動が事実上，広汎な人民大衆にその基礎を置いている，という点にある。まさに，この方向に国民党改組は動いているのである。このスローガンの下に，あらゆる所で集会が持たれ，新聞が発行されているのである。この活動は中国共産党中央委員会の作成したプランに基き，実行されており，それは中国社会主義青年団中央委員会との意見の一致をみたものであり，国民党中央執行委員会の審議を経たものである。共産党と国民党との関係は民族革命運動に関するコミンテルンの決議，及び中国共産党第三回大会の決議に応じて，でき上ったものである。》

広州の共産党員の経験によって，民族・革命運動を広汎に展開することができるのは，国民党のあらゆる部門に共産党の代表がいる場合に限られることが明瞭に証明された。共産党員は国民党内で活動しながら，自らの党を弱めることはなく，逆に自らの下部組織の政治的活動性を高めた。

国民党右派が共産党員の提案に対して，また，彼等との合作について疑いをいだいているので，Бородин は中国共産党中央委員会の代表と共に，時には直接孫文を通じて，共産党の提案を実現せざるを得なかった。

Бородин が日常活動で最も頻繁に関係を持ったのは陳独秀——中国共産党中央委員会総書記と，譚平山——国民党中央執行委員会で働いている中国共産党中央委員会全権委員，であった。

Бородин の最も親密な協力者であり，信頼できる同志は若い共産党員，張太雷であった。Бородин は党の観点から中国の諸問題を評価することができる中国の同志の日常的援助をとても必要としていた。忘れてならないことは Бородин と中国の現実との間には《言語のバリヤー》が存在していることである。さらにむつかしいのはその土地の持つ，極めて入り組んだ特殊性のバリヤーであった。この独得の《中国の長城》に打ち勝つことは中国の革命家の信頼できる，恒常的な援助なしには難かしいことであった。かつて，ロシアにも来たことのある，共産党員であり，且つ熱烈な国際主義者である張太雷を Бородин は選んだ。この選択が正しかったことはその後のことが証明した。それを証明するのは広東コンミューンでの張太雷の英雄的な功績と死である。

1927 年，12 月，中国革命が反動派の圧倒的優勢な軍隊の襲撃のもとに敗北を喫した時，張太雷は中国共産党員の最後の英雄的革命行為，即ち，広東コンミューンを指導した。彼は中国で初めて成立した労農政府の陸軍，及び海軍の政治委員になり，革命の新しい段階の武装兵力をつくり始めた。これが中国紅軍の原型である。さらに，広東コンミューンの人民委員会議の議長である蘇兆徴が広東に潜入することができなかったので，彼がその代りを勤めた。張太雷は集会からの帰り途，暗殺された。彼は中国共産党広東委員会書記であり，中共政治局委員候補であった時，英雄的死を遂げたが，その年は未だ 30 才にも満たなかった。

さて，私達は国民党大会前の Бородин の活動に戻ろう。

国民党内での共産党の初期の活動について Бородин は語っている。《私には上海の事態がどうも広州ほどうまく行っていないように思われた。》

当時，国民党の進歩的刊行物をつくるために，色々な事が為された。《民国日報》は大きな日刊紙に変わった。国民党中央執行委員会上海支部は次のようなスタッフでこの新聞の編集局員を選んだ。それは汪精衛，胡漢民，瞿秋白（中国共産党中央委員会出身）であった。色々な事実を総括してみると，中国共産党第三回大会の後の数カ月間，国民党内での工作という決議は実際には殆んど実行されなかった。第 1 に，党内部に，この点に関して異論があった。第 2 に，地方組織の国民党員には共産党員に接近する意志が全くなかった。

中国共産党中央委員会第一回総会後の 1923 年，11 月の終り頃になって初めて，事態が変化した。その総会で，共産党員が国民党改組に具体的に参加する，という決議が採択された。1924 年，1 月の会議で，上海の共産党組織は広州ほどうまく活動を展開していない，と Бородин が指摘したのに答えて，陳独秀は言った。《上海の党活動は事実，広州ほどの成果をあげていない。これは上海の党組織自体が広州の組織に劣っているからではなく，我が党の広州の組織が直ちに，党第三回大会の決議に賛成したからである。他の組織はこの政策に対して若干，疑問を持っていた。上海地区ではこの時まで，共産党と国民党員の間に何らの接触もなかった。》

国民党第一回大会が開かれるまでの広州，及び上海で形成されていた勢力の分布図は大体，以上のようであった。